



認知症のその人を理解するための『自分史』を活用した ケアの実践について

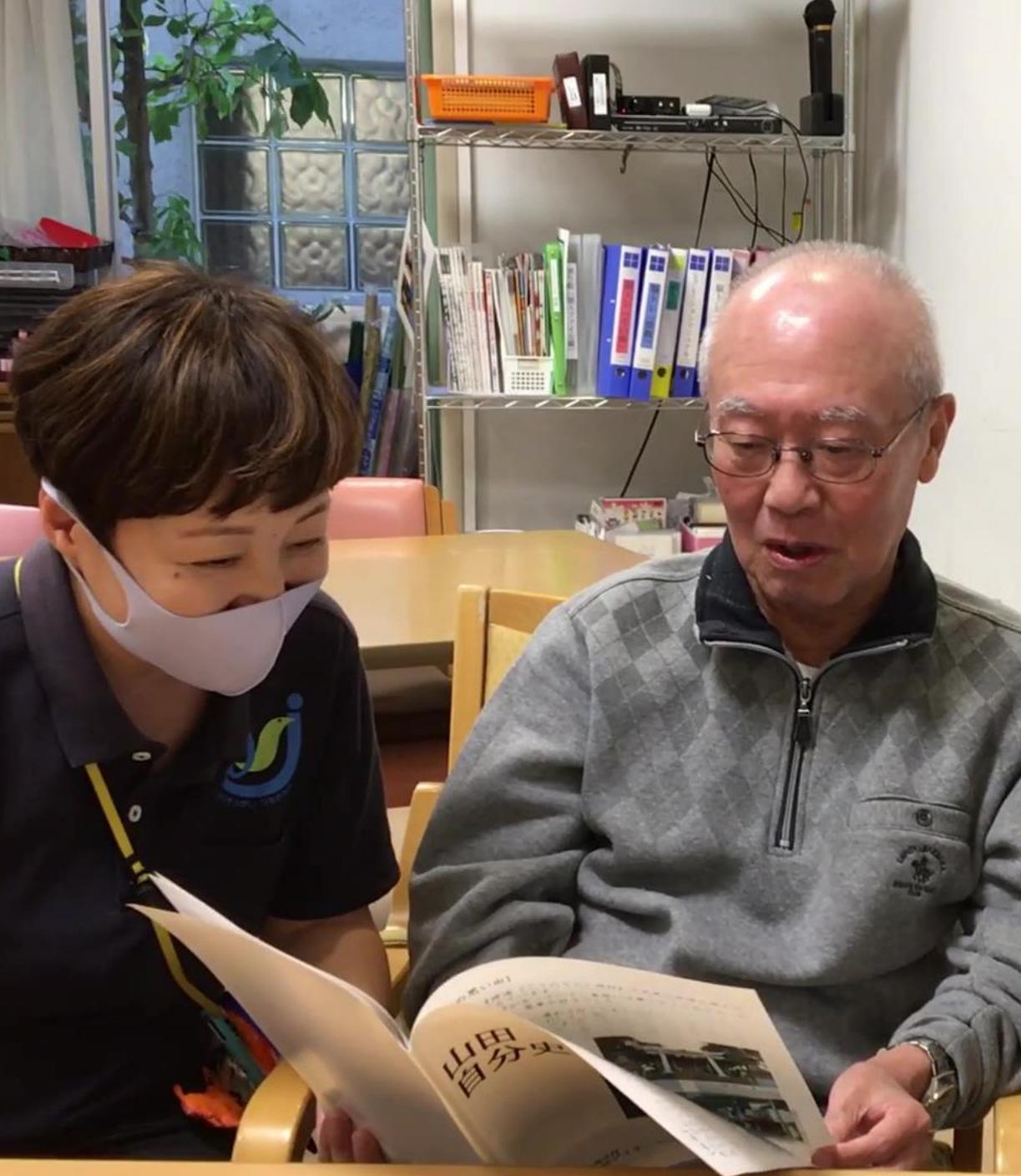
大阪老人福祉施設研究大会（オンライン）発表資料

社会福祉法人大阪府社会福祉事業団

四條畷荘デイサービスセンターほほえみ

やさしいケアPTメンバー





発表の概要

四條畷荘デイサービスセンターほほえみで認知症ケアの推進に取り組む「やさしいケアPT(プロジェクトチーム)」が取り組んでいる認知症のその人の生き立ちや今を紐解く『自分史』を活用したケアについて、それを作成する過程や活用したケアの実践内容を紹介します。

認知症の人やその方を在宅で支えるご家族（介護者）に対する職員の理解の変化やケア内容について、参考になればと思います。



事業所の紹介

母体 : 社会福祉法人大阪府社会福祉事業団

併設 : ●特別養護老人ホーム四條畷荘（定員120名）

＊短期入所生活介護併設（定員10名）

●養護老人ホーム四條畷荘（定員50名）

●四條畷荘居宅介護支援事業所「ほほえみ」

●四條畷荘訪問介護事業所「ヘルパーステーションほほえみ」

●四條畷第2地域包括支援センター（委託事業）

所在地 : 大阪府四條畷市北出町

定員 : 35名（通常規模）

モットー : 要支援の方から要介護の方まで、その方が住み慣れた地域で、できるだけ長く暮らし続けることができるように全力で応援します。とにかく明るい職員とご利用者の皆さんと過ごす1日で、もれなく“ほほえみ”をお持ち帰りいただきます。



“自分史”を作ろうとした動機

- 認知症のご利用者の対応について、その難しさを感じている職員がいた。
- BPSDは職員の対応の仕方によって、その症状の出方に差があることを感じていた。
- 職員の対応の仕方や対応の難しさの感じ方は、認知症の人の“理解”の度合いに影響することを感じていた。
- 認知症の人の“今”を知るためのアセスメント情報はあがるが、“今”に至るまでの経緯について、情報が薄かった。
- 回想レクリエーションなどは行っていたが、“個人”に焦点を当てた取り組みではなかった。



優（YOU）＆愛（I）委員会（虐待防止委員会）に参加している有識者からのアドバイスで

“自分史”の存在を知ることにより・・・



“自分史”の主演（対象者の方の概要）

● Y・T様（79歳） 男性

● 要介護度 : 要介護1

● 認知症高齢者の日常生活自立度 : II b

● ご利用開始日 : 令和2年8月8日～利用開始

● ご利用頻度 : 3日／週

● ご利用の目的 : レビー小体型認知症と判定され、外出は妻と散歩に行くのみで、

朝から晩までテレビを観て過ごされていた。

妻の声掛けへの反応も少なくなってきたため、デイサービスに行く事で刺激になればと思い、利用を開始することに。

また、ご家族（妻）も1日ずっと夫と2人の為、自分の時間も作りたいという希望もある。

初めは週1回ほどでスタートし、慣れれば増やしたいという意向。



【大学時代】



【石原裕次郎の時代】



“自分史”の作成過程・作成方法

やさしいケアPTのメンバー（2名）で以下の内容で作成していく

- ご本人への聞き取り。
- 自宅に行ってお家族への聞き取り
- 写真や思い出の品などをカメラで撮ってデータ化
- 聞き取り内容を元に、インターネットなどで資料集め
- ライフステージごとに文章化

「情報収集の視点・項目」

以下の項目に係るエピソードを記録してもらいます。それぞれにまつわる物・写真などがあればなお良しです。

項目	視点・項目	視点・項目	視点・項目
出生時	出身地	生まれた時の家の様子	名前の由来
	生まれた時の両親の様子	生まれて初めての記憶は？	
幼少期	両親との思い出	兄弟との思い出	幼馴染との思い出
	うれしかった・楽しかった思い出	辛かった・悲しかった思い出	褒められた思い出
	どこかに連れて行ってもらった思い出	好きだったもの・食べ物・テレビ・本・スポーツ	どんな子だった？
学生期	小学校・中学校他、学校の名前は？	覚えている先生の名前	仲の良かった・悪った友達の名前
	学生生活で熱中していたこと	好きな科目・嫌いな科目	先生から褒められた・怒られた思い出
	うれしかった・楽しかった思い出	辛かった・悲しかった思い出	褒められた思い出
	どこかに連れて行ってもらった思い出	好きだったもの・食べ物・テレビ・本・スポーツ	どんな子だった？
	自分の転機になったこと	影響を受けたもの・人	将来なりたかった職業や進路
	飼っていたペット	好きな芸能人	応援していたスポーツのチーム
	初恋の人	下校時に良く寄った店、場所	よく遊んだ場所・流行っていた遊び
	集めていたもの	熱中した趣味	給食で好きだったもの
社会人	好きだった父親・母親の料理		
	職歴	覚えている上司や先輩、同僚、後輩の名前	上司や先輩、後輩とのエピソード
	仕事で成功したこと、失敗したこと	会社での役割・就いた役職	良く行った店
	うれしかった・楽しかった思い出	辛かった・悲しかった思い出	褒められた思い出
	好きだったブランド・服・車、高級品	集めていたもの	
恋愛・結婚	恋愛履歴	結婚のなれそめ	結婚式場は？ナコードは誰にしてもらった？
	子育ての想いで	家族で良く行った場所	住んでいた家や地域の想いで
	夫婦の思い出	プロポーズは誰から？決めて、どこで？	良く行った場所
	恋人からもらってうれしかったもの、恋人にあげた・からもらった一番の高級品		

その他

- 初めての体験・・・はじめて聴いた曲、観た映画、スポーツ、初めて買った車、高級品
- 人生の転機
- 人生を変えた出来事・人物
- 座右の銘
- 好きな言葉、尊敬する人
- 好きな場所、旅行した場所
- 自慢できること、自慢したいこと、もの



“自分史”を活用したケアの実践

【今でも集めている帽子】

- “自分史”をご本人と一緒に読み合わせることによる回想法的な活用
- “自分史”の作成過程で得た情報を使った会話の展開 etc



何よりご本人を理解しようとする**“職員の意識”**と

ご本人への基本的な**“関わり方”**が変わります

【子ども時代の思い出】

覚えていた先生は、『台川先生（男性）』と『大橋先生』。台川先生はすごい優しい先生で、大橋先生はお母さんでした。仲良くしていた友達は『佐藤君』。小学校からずっと仲良くして、大人になって教職員になりました。今でも同窓会は楽しみの1つです。好きな科目は『国語』。中学生からは『英語』が好きになりました。数学と理科は苦手・・・

小学生の時は、毎月、講談社の『小学〇年生』を買ってもらっていて、楽しめていた。

模型電車が懸賞で当たった時があって組み立てて走らせたの覚えています。

【昭和20年代の教科書】

学校の給食は今と違ってなく、昼間に家に帰ってました。非常食の田舎ですから、『イワシ』が大好きで、知人親戚から安く手に入る『さつまいも』は定番！ほとんどイワシとイワシの毎日。2段のお弁当箱の二飯の上に『かつお節』と『醤油』をまぶしたのがえれはもう！おいしくて！

【昭和30年 阪神ダイガース優勝の年】

テレビは近所の友達の家まで見に行っていました。プロレスが好きになり、高校の時に佐世保まで試合を観に行ったのを覚えています。プロレスは徹夜で観に行ったこともありました。（リングのそばで寝るんです・・・）

確かおれは、昭和30年8月14日の日曜日。佐世保にある駐留軍グラウンドに行われたクワッドマッチ！【力道山克彦 & 東富士 対 ジェス・オルテガ & ボブ・オートン】戦

スポーツはソフトボール、野球もしました。プロ野球では阪神ファンで、甲子園球場にも行ったことがあります。今でも阪神ファンでテレビで応援しています。



【自分史の1ページ】



“自分史”を活用したコミュニケーション



作成過程やケアの実践をとおして感じた職員の所感



●自宅訪問し、ご家族（妻）からお話を聞く中で、楽しいことばかりではなく、共に暮らす中での色々な気持ちを聞くことができました。

●デイサービスの時間も“暮らしの一部”であること、ご家族の想いを大切にしながらご本人の暮らしを支えることがデイサービスの役割であることを再認識することができました。



作成過程やケアの実践をとおして感じた職員の所感



- デイサービスセンターは“こうあるべき”の固定概念を考え直すことができました。
- 地域で生活する高齢者世帯の実際を知ることや、ご本人の理解・ご家族の理解を通して、本当に必要なケアやデイサービスの役割を見つめ直す機会になりました。



今後の展開

今回、認知症状が見られるご利用者への自分史作成に携わり感じた事は、

「現在のご本人の様子や行動には、今までの人生や歩みがつながっている」ということです。

また、デイサービスの役割が、一日を元気に過ごして頂くだけではなく、

ご利用者やそのご家族の日々の暮らしを支える事、

本当に必要とされているケアを個別に提供する事だと改めて気づく事ができました。

今後は職員間で自分史を共有することで、ご利用者のケアの質を向上させると共に、

ショートステイや施設入居等のサービスを移行される際に、

A D L や既往歴、薬情等のアセスメント情報に加え、

“自分史”というツールがご利用者を知る必要不可欠な情報として

ケア“パス”していきたいと思えます。

ほほえみ
×
わらい

